

吃音の正しい理解・啓発と支援のために

福井県特別支援教育センター
監修 関西外国語大学
堅田利明（言語聴覚士）

吃音は、ことばがつかえたり、すぐにことばが出なかったりする言語症状を言います。

吃音は、人と話そうとかまえた時にスイッチが入るような症状

- ・人や場所、話す場面・時期、話の内容によって吃音症状に違いが生じます。
- ・本人にとってどもりやすいことばと、そうでないことばがあります。
- 吃音は、2～5歳頃から始まることが多く、8割程度の人吃音症状は自然になくなり、2割の人はその後も吃音症状を持ったまま大人になっていきます。
- 吃音になる原因はまだ特定されていませんが、子育てやストレスが要因ではありません。

周りの人は吃音のことをよく知らないのに、安易な意見や助言をしがちです。

そのことによって、本人や保護者・家族が振り回され、苦しめられることになります。

誤解されている「吃音」

口や舌がうまく動いていないから
言いたいことがたくさんあって、あわてるから

親の子育てや愛情不足
習い事や何らかのストレス

神経質で気が弱い性格

緊張して話すから
早口で話すから

大人になれば自然に治る
訓練すれば治る
治らないし、何もできない

気にしないこと
周りが知らないふりをする

ゆっくり話しかけるとよい

他に何か自信をもたせるのがよい

<吃音の主な症状>

連発（繰り返し）

「お、お、おはよう」

伸発（引き伸ばし）

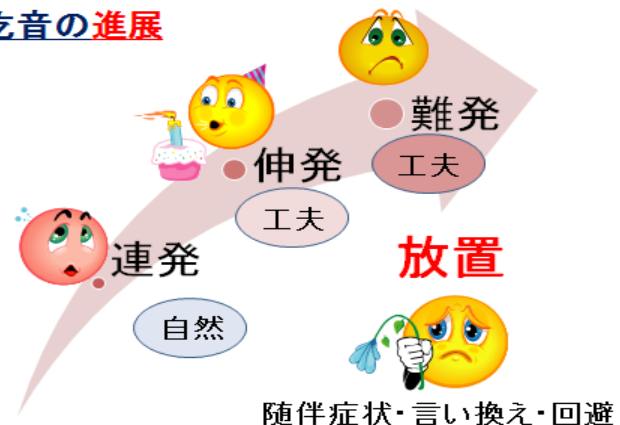
「おーはよう」

難発（ブロック）

「・・・おはよう」

どもらないようにしようとすることで症状が進行（進展）していきます。

吃音の進展



<症状を重くしないための支援>

- ・吃音の話を家庭や園・学校でできるような理解の促進。
- ・吃音のマネやからかいに至る前に吃音についての学習。
→ 吃音症状の進行（進展）予防のために。
- ・どもりながらもそのまま話せる場をつくっていく。
- ・困る場面があれば具体的な対策や工夫を考えていく。

吃音のある子どもの周りにいる子どもたちや大人たちに、正しい吃音の理解や学習する機会を進めていきます。

※詳細は当センターHPの「吃音のある子どもの理解と支援コーナー」をご覧ください。